

◀ 目 次 ▶

- ・ 創立100周年記念事業の骨子かたまる ……3
- ・ 創立100周年記念ロゴが決定 ……4
- ・ 平成23年度 入学試験実施要項 ……4
- ・ 平成22年度 オープンキャンパス実施 ……4
- ・ 平成22年度 科学研究費補助金交付 ……5
- ・ 5年生岸田瑠加さんと塩谷洋子さん
「SCRP」日本選抜大会で優勝 ……7
- ・ 第18回公開講座（天満橋講座） ……7
- ・ 秋山先生「学会発表ポスター賞」受賞 ……8
- ・ ウルグアイ大学 Nisizaki 教授特別講義 ……8

- ・ 吉川先生「歯のばんそうこう」共同開発 ……9
- ・ 南方医科大学学生訪問 ……10
- ・ 平成22年度 学生短期海外研修派遣 ……12
- ・ 平成22年度 父兄会・共済会開催 ……13
- ・ 平成22年度 6学年父兄会ならびに
地方父兄会開催 ……13
- ・ 第42回全日本歯科学生総合体育大会 ……13
- ・ 学位（博士）授与報告 ……14
- ・ 人 事 ……14
- ・ あとがき ……14



スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本選抜大会
優勝トロフィー授与式（9月24日・楠葉学舎）
川添学長（前列中央）、左へ優勝した岸田さんと塩谷さん、指導された山中先生

創立 100 周年記念事業の骨子かたまる

平成23年の創立100周年に向けて、記念事業の準備が着々と進展し、それぞれの事業の骨子が固まりつつあります。各事業の進捗状況は下記の通りです。

1) 記念式典・祝宴・慰霊祭

2011年11月11日（金）に大阪国際会議場およびリーガロイヤルホテルで開催します。式典等の詳細について検討を進めています。

2) 本学発祥の地・記念碑設置

本学が明治44年に大阪歯科大学として設立された発祥の地である現在の大阪市福島区野田に、記念碑を建立すべく進めています。幸い大正時代に作成された地図が見つかり、その地図にはっきりと「私立大阪歯科大学」と記載されているので、発祥の地はほぼ特定されています。公有地（野田公園内）に建立するための大阪市への申請ならびに地元の皆さんのご理解と応援を得るべく進めています。

3) 記念事業募金

募金趣意書がまとまり、募金の目的を「大阪歯科大学天満橋学舎『100周年記念館（仮称）』建設事業募金」とし、教育施設の充実を100周年記念事業の柱としたいと考えています。募金目標額を5億円と決め、個人は1口2万円、法人ならびに団体は1口10万円としました。文部科学省の認可を受け、募集のスタートは平成22年11月を予定しています。同窓および関係各位のご協力をお願い申し上げます。一定額以上のご寄付いただいた皆様への顕彰として記念館内に寄付者銘板を掲げることにしています。

4) 講義室・自習室建設

前記の記念事業募金の対象となる学生のための教育施設建設の検討を進めています。学生の勉学・教育に資する施設とするために設備面での充実も検討しています。

5) 大学100年史・大学院50年史（出版物）

「大学100年史」「大学院50年史」とともに学生のための「自学史」を出版することが決まっています。100年史は記念式典後1年以内の出版を予定しています。

6) 公開講座・講演会

記念式典の翌日に同じリーガロイヤルホテルで講演会の開催を計画しています。また、記念式典の1年前に

あたる11月23日（祝）に「日中韓学術会議」を開催します。

7) 歯科医学の歴史的資料の収集

歯科医学および歯科医療に関する資料ならびに歴史的な価値のある器具・器械などを収集します。

募金趣意書

謹 啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本学は、平成23（2011）年に創立100周年を迎えることとなりました。これも偏に1万5千人を超える卒業生の皆様をはじめとする関係者各位のご支援の賜物であると深く感謝いたしております。

さて、100周年を迎えるにあたりまして、本学では教職員一同が「誇りと誓い—藜藜（しんしん）たる大樹へ—」という標語の下、「五つの力（りょく）の目標」を掲げ、良き伝統を生かしつつ、新たな伝統の創造に向けた改革に邁進しているところでございます。

申し上げるまでもなく、改革の最大の柱は学生の学力向上と教員の教育力向上ですが、これらの目標に資するためには、天満橋学舎における教育施設の充実が喫緊の課題となっております。このため、「100周年記念館（仮称）」を天満橋学舎に建設し、100周年記念事業の柱としたいと考えております。

「100周年記念館（仮称）」は、収容人員が250名を超える大講義室等をはじめとした教育施設を備え、国家試験を控えた5～6年生に対する効率的かつ実践的な教育の充実を図ることが可能になる教育施設です。また、天満橋学舎における学会開催や講演会等への利用の一助にもなるものと考えております。

本学では、創立100周年に向けて、大学・附属病院の経営改善などを通じた自己資金の確保の努力を鋭意行っているところですが、ご賢察のとおり、私立歯科大学を取り巻く環境には非常に厳しいものがございます。

つきましては、誠に恐縮ながら、本事業の趣旨にご理解をいただき、皆様方のご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

謹 白

平成 22 年 11 月 吉日

大阪歯科大学創立 100 周年記念事業募金委員会
大阪歯科大学 理事長・学長 川添 堯彬
大阪歯科大学同窓会 会長 三谷 卓

創立100周年記念ロゴが決定

大阪歯科大学創立100周年を記念するロゴマークが決定しました。

創立100周年の標語「誇りと誓い—葉葉たる大樹へ—」をモチーフに、一歩ずつ成長していく大樹の姿に本学もそうありたいという願いを込めています。



平成23年度 入学試験実施要項

本学が平成23年度に実施する入学試験の概要は、以下の通りです。平成21年度から学納金(学費)の大幅な引き下げを行うとともに、平成22年度では推薦入学試験に指定校制を採用し、募集人員も変更しています。

■推薦入学試験

- ・試験日 平成22年11月27日(土)
- ・募集期間 11月1日(月)～19日(金)
- ・合格発表日 12月8日(水)

◎公募制推薦入試

1) 出願資格

- ・平成22年3月高等学校を卒業した者および平成23年3月高等学校卒業見込みの者
- ・調査書の全体の評定平均値3.3以上
- ・高等学校長の推薦する者(複数可)

2) 試験

- ・小論文、学力試験(英語・数学・理科〔物理I・II、化学I・II、生物I・IIのうち1科目選択〕)、面接
- ◎指定校制推薦入試

1) 出願資格

- ・平成22年3月高等学校を卒業した者および平成23年3月高等学校卒業見込みの者
- ・調査書の全体の評定平均値3.8以上
- ・高等学校長の推薦する者(1校1名のみ)

2) 試験

- ・小論文、面接

■一般入試(前期日程)

- ・試験日 平成23年1月29日(土)
- ・募集期間 1月6日(木)～24日(月)
- ・合格発表日 2月3日(木)
- ・試験
外国語(英語I、II、リーディング)、数学(数学I、II、A、B)、理科(物理I・II、化学I・II、生物I・IIから1科目選択)、小論文、面接

■一般入試(後期日程)

- ・試験日 平成23年3月12日(土)
- ・募集期間 2月14日(月)～28日(月)
- ・合格発表日 3月16日(水)
- ・試験
外国語(英語I、II、リーディング)、数学(数学I、II、A、B)、理科(物理I・II、化学I・II、生物I・IIから1科目選択)、小論文、面接

平成22年度 オープンキャンパス実施

平成22年度の第1回オープンキャンパスを5月30日(日)、第2回を7月26日(月)、第3回を8月24日(火)に楠葉学舎において実施しました。

日程は、川添理事長・学長の挨拶、学内施設の見学、学生による学生生活の説明、本学の歴史・教育方針ならびに平成23年度入学試験の説明のあと質疑応答および個別懇談を行いました。第4回オープンキャンパスは10月30日(土)の文化祭当日に開催されます。

平成22年度 科学研究費補助金交付

平成22年度の科学研究費補助金は新規申請を179件行い、そのうち12件が採択され、継続分24件とあわせ

て36件、総額52,000,000円（直接経費40,000,000円・間接経費12,000,000円）が交付されることになりました。研究種目別では、基盤研究(C)が26件(内新規9件)、若手研究(B)が10件(同3件)で、採択率は全体で17.7%（新規は6.7%）でした。

平成22年度科学研究費補助金採択者一覧

研究種目	継続 新規	課題番号	研究代表者 氏名	所属	研究課題名	助成額(円) 直接経費/ 間接経費
基盤研究(C)	継続	19592273	西川 哲成	口腔病理学	理想的な足場材料サンゴ、その特性と新生骨形成	600,000 180,000
基盤研究(C)	継続	20592167	桧枝 洋記	生物学	唾液腺上皮管腔形成におけるタイトジャンクション分子クローディングの役割	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	20592213	合田 征司	生化学	慢性歯周炎進展機序におけるT細胞浸潤の役割についての解明	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	20592246	好川 正孝	口腔治療学	歯髄・象牙質複合体再生のためのスポンジ状担体の開発と担体内骨形成促進因子	800,000 240,000
基盤研究(C)	継続	20592247	吉川 一志	歯科保存学	レーザー高吸収体配合う蝕検知液を用いたう蝕の選択的除去	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	20592294	呉本 晃一	欠損歯列補綴咬合学	線維芽細胞増殖因子が歯髄幹細胞の機能と分化を制御する	600,000 180,000
基盤研究(C)	継続	20592295	前田 照太	臨床教育研究科	有床義歯による咬合支持の回復が唾液中の免疫グロブリンと神経成長因子に及ぼす影響	900,000 270,000
基盤研究(C)	継続	20592382	宮前 雅見	内科学	周術期の吸入麻酔薬とアルコールによる心筋保護相乗効果のメカニズムと臨床応用の解明	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	20592441	鎌田 愛子	生化学	歯周組織再生に及ぼすアディポサイトカインの影響	800,000 240,000
基盤研究(C)	継続	20592442	田中 昭男	口腔病理学	新規骨形成剤ペプチドによる歯周組織再生	500,000 150,000
基盤研究(C)	継続	21550053	藤原 眞一	化学	還元脱離の促進を鍵とする炭素-テルル結合のアルキン類への触媒的付加反応の開発	900,000 270,000
基盤研究(C)	継続	21592481	田中 順子	有歯補綴咬合学	長期的にPMT Cを施術した高齢者のう蝕予防効果	500,000 150,000
基盤研究(C)	継続	21592482	井上 雅裕	口腔インプラント科	口腔上皮由来幹細胞による粘膜再生は線維芽細胞増殖因子により加速する	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	21592547	野崎 中成	薬理学	多能性歯髄幹細胞の可塑性における機能性RNAによる分化制御に関する基礎的研究	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	21592548	覚道 健治	口腔外科学第二	咀嚼筋腱・腱膜過形成症の画像診断基準の確立と病態解明	500,000 150,000
基盤研究(C)	継続	21592583	杉岡 伸悟	歯科麻酔学	口腔急性疼痛の心筋への影響に関する研究	1,000,000 300,000

基盤研究(C)	継続	21592671	王 宝禮	歯科医学教育 開発室	抗菌薬・漢方薬による歯周疾患治療法の画一化 とガイドラインの確立	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	新規	22520035	樫 則章	倫理学	わが国における歯科医療倫理学の構築のための 基盤的研究	1,400,000 420,000
基盤研究(C)	新規	22592174	橋本 典也	歯科理工学	i P S細胞を用いた顎骨再生の臨床基盤技術の 開発	1,500,000 450,000
基盤研究(C)	新規	22592202	今井 弘一	歯科理工学	i P S/E S細胞による歯科用モノマーの発生 毒性スクリーニング試験	1,800,000 540,000
基盤研究(C)	新規	22592271	百田 義弘	歯科麻酔学	局所脳虚血モデルを用いたリドカイン脳保護作 用の解明	1,700,000 510,000
基盤研究(C)	新規	22592306	松本 尚之	歯科矯正学	歯の移動時における歯槽骨再生を目的とした骨 補填材の開発	1,600,000 480,000
基盤研究(C)	新規	22592323	堂前 尚親	内科学	歯周病の動脈硬化性病変形成における役割の解 明	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	新規	22592324	上田 雅俊	歯周病学	新規合成ペプチドを用いた歯槽骨再生誘導治療 戦略の構築	1,900,000 570,000
基盤研究(C)	新規	22592351	上根 昌子	口腔衛生学	学童期口腔健康レベル評価法の確立に関する研 究	800,000 240,000
基盤研究(C)	新規	22592352	神 光一郎	口腔衛生学	歯科保健医療の需給量の推計と国民の口腔健康 ニーズに関する研究	800,000 240,000
若手研究(B)	継続	21791820	石塚 智子	薬理学	食品の硬さの嗜好を調整する脳内物質の解明	700,000 210,000
若手研究(B)	継続	21791833	井上 博	生理学	炎症発症機序解明におけるNK細胞の結合組織 浸潤機構についての解析	1,300,000 390,000
若手研究(B)	継続	21791834	堂前 英資	生化学	骨組織に存在するマクロファージの骨免疫学的 検討—顎骨壊死メカニズムの解明—	1,400,000 420,000
若手研究(B)	継続	21791956	西田 尚敬	歯科保存学	カルシウムドーブチタニアナノチューブを応用 した歯科用セラミックス材料の創製	2,100,000 630,000
若手研究(B)	継続	21791957	牧田 佳真	化学	シクロデキストリンを利用した機能性コンポ ジットレジンの開発	700,000 210,000
若手研究(B)	継続	21792137	田口 洋一郎	歯周病学	Beta-defensin-2産生による歯 周自然免疫活性化機構のメカニズム解析	1,200,000 360,000
若手研究(B)	継続	21792164	有城 久美子	内科学	歯周炎に合併する動脈硬化病変の早期発見と心 臓弁膜病変の評価	1,500,000 450,000
若手研究(B)	新規	22791914	奥田 恵司	欠損歯列補綴咬 合学	咀嚼能力の回復が学習・記憶能に及ぼす影響	1,000,000 300,000
若手研究(B)	新規	22792029	大草 知佳	歯科麻酔学	揮発性麻酔薬による虚血心筋保護作用における アデノシンおよび一酸化窒素の関与の解明	1,900,000 570,000
若手研究(B)	新規	22792030	後藤 基宏	口腔外科学(二)	睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置治療の 使用継続率と咬合との関連性	1,100,000 330,000
合計 36件 (内 継続24件)						40,000,000 12,000,000

5年生岸田瑠加さんと塩谷洋子さん 「SCRP」日本選抜大会で優勝

歯学生による英語での研究発表，「スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本選抜大会」が8月20日，東京・市谷の歯科医師会館で開かれ，本学から参加していた5年生の岸田瑠加さんと塩谷洋子さんが見事優勝しました。

16回目となる今大会は，22校の歯科大学・歯学部が参加し臨床研究部門，基礎研究部門においてそれぞれ上位2位が選考され，臨床研究部門で1位となった二人は，総合でも1位に選ばれ優勝しました。研究テーマは「う蝕予防を目的としたまんじゅうの製作と研究」で，和菓子へのう蝕予防を目的とした代替甘味料の応用を実験的に研究し，実用化に向けさまざまな甘味料のデータを提供しました。

9月24日，優勝トロフィーの授与式が楠葉学舎で開催され，川添堯彬学長から優勝した岸田さんに「2010大阪歯科大学」と刻印されたトロフィーが授与されました。また，日本歯科医師会からの表彰状がファкультィ・アドバイザーとして諏訪教授にも贈られました。最後に，岸田さんと塩谷さんが謝辞と本大会への意気込みを述べました。

岸田さんと塩谷さんは，日本代表として10月に開催されるアメリカ歯科医師会の年次総会において，各国の代表とともに研究成果を発表します。



第18回 公開講座（天満橋講座）

第18回大阪歯科大学公開講座（メインテーマ「最新の歯科疾患診断からわかるあなたの健康」）が，9月4日（土）と11日（土）の2日間，天満橋学舎西館5階臨床講義室において開催されました。9月4日，11日とも2講座ずつ開催され，164名と129名の参加者があり満席となりました。講演後も，参加された市民から多くの質問があり，健康への関心の高さを示していました。

第18回公開講座（天満橋講座）

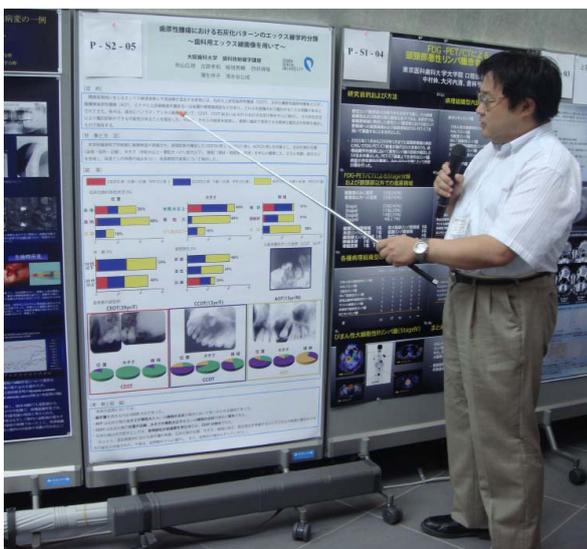
日程	演題	講師
9月4日	① ここまで進んだ診断技術	口腔病理学講座 講師 富永 和也
	② 診断でわかる治療方針	口腔外科学第一講座 准教授 井関 富雄
9月11日	③ 画像診断でとらえる歯科疾患	歯科放射線学講座 准教授 四井 資隆
	④ 内視鏡でみるのどの病気	耳鼻咽喉科学講座 准教授 久保 伸夫



秋山先生「学会発表ポスター賞」受賞

9月3日～5日にかけて鹿児島大学で開催された「第15回臨床画像大会」(NPO法人日本歯科放射線学会主催)において、歯科放射線講座の秋山広徳先生が学会発表ポスター賞を受賞しました。

演題名は「歯原性腫瘍における石灰化パターンのX線学的分類～歯科用X線画像を用いて」で、画像検査における透過不透過混在病変の鑑別について、腫瘍疾患ごとに石灰化物の位置、大きさ、様相を調べた結果、疾患群間において有意差があることがわかり、鑑別診断における有効性を示唆するものであります。



ポスターセッションで説明する秋山広徳先生

ウルグアイ大学 Nisizaki 教授特別講義



9月27日、ウルグアイ大学歯学部 Susumu Nisizaki 大学院教授が本学の4年生に特別講義を行いました。教授は、長年ウルグアイ大学歯学部で教鞭をとられ1991年に補綴学の教授になり、2000年からは高齢者歯科学大学院の主任教授を務めておられます。

講義では、Piezography (ピエゾグラフィ) の手法

について解説されました。ピエゾグラフィとは、1970年にフランス人のKleinにより提唱された用語で、全部床義歯(総入歯)を製作する上で、発音時に舌や口唇に生じる筋肉の動きを軟性材料に記録することにより、より機能的に義歯の安定を図る手法のことです。教授は、通常の義歯製作過程にピエゾグラフィを取り入れることにより、義歯の機能的安定度を増大させることで義歯装着時の違和感がなくなり安定し、患者さんのQOL(生活の質)を向上させるとしています。また、アンチエージングの観点からも適切な筋機能が発揮できるようになり、口腔内のあらゆる筋肉にもよい効果を及ぼすと説明しています。



吉川先生「歯のばんそうこう」共同開発



歯科保存学講座の吉川一志准教授と近畿大学生物理工学部の本津茂樹教授の共同研究チームが9月28日、歯の主成分の「ハイドロキシアパタイト」を原材料とする超薄型シートを開発したとマスコミに発表しました。

ハイドロキシアパタイトは歯や骨の主成分で人間の体の中でもっとも硬い硬組織を形成していますが、これまでその硬さともろさのため歯科治療用の材料として加工が困難でした。吉川先生のチームは2年前から共同開発を始め、ハイドロキシアパタイトの歯科治療材料としての可能性を追究してきました。

今回の発表では、真空の容器の中でハイドロキシアパタイトの粉末に高エネルギーの紫外線レーザーを照射することにより、分子を活性化させて塩分を成分と

する基板上に結晶化させることに成功しました。実験ではこのシート状の結晶を0.005ミリの薄さで加工することに成功しており、唾液により歯に付着することも確認されています。ハイドロキシアパタイトはもともと歯の成分であるため人体への親和性も高く、副作用も少ないと考えられており、知覚過敏症や子供の虫歯の予防など歯科治療材料として実用化が期待されています。

今回の研究発表は、翌29日の朝日新聞、読売新聞を始めとする大手マスコミ各紙の朝刊に大きく囲み記事として掲載されました。また、テレビでも29日の毎日放送のニュース番組「VOICE」で、吉川先生が説明している様子が紹介されました。

吉川先生は、ハイドロキシアパタイトの治療シートについて「まだ基礎研究段階ですので、臨床応用に向けて種々の問題を解決して早期の実用化に努力いたします。問題の解決には各方面の専門の方のご意見やご指導が必要だと考えています。ご協力よろしくお願いたします」とコメントしています。

① 朝日新聞 (9月29日朝刊)

知覚過敏を治す「歯のばんそうこう」

歯と同じ成分 体にやさしく

大阪歯科大 近大

【掲載紙】4紙 (9月29日)

①朝日新聞
②読売新聞
③産経新聞
④日本経済新聞

② 読売新聞 (9月29日朝刊)

歯のばんそうこう 世界初、実用化へ

近畿大・大阪歯科大

近畿大・大阪歯科大

近畿大・大阪歯科大

④ 日本経済新聞 (9月29日朝刊)

歯の「ばんそうこう」

同成分使用 張れば 一体化

知覚過敏治療などに応用

南方医科大学学生訪問

6月に南方医科大学口腔医学院の学生10名が本学を訪問し、特別講義や病院での研修を受けました。南方医科大学と本学は1996年に学术交流協定を結んでいますが、南方医科大学の学生がまとまって本学を研修訪問するのは今回が初めての事です。学生たちは1週間日本に滞在し、日本旅館にも泊まりました。

6月15日の午後、関西国際空港に到着した学生10名と引率の教員2名からなる南方医科大学口腔医学院の一行は附属病院近くのホテルで一泊した翌日、楠葉学舎を訪れました。図書館や中央歯学研究所を見学したあと、午後から神原教授の特別講義を本学学生と一緒に受けました。午後6時からは附属病院の「プラザ14」でウェルカムパーティーが開催されました。

6月17日は午前中、病棟や各診療科を見学し、午後からは岡崎教授の特別講義を受けました。講義終了後、一人ひとりに修了証書が授与されました。訪日団一行は21日に帰国の途に着きました。



南方医科大学口腔医学院5年生の鲁宁(Lu Ling)さんが、今回の学生訪問の印象をメールで「日本游记」と題して送ってくれましたので、長文ですが紹介します。

日本游记

-----记2010年6月南方医科大学学生交流团访问日本大阪齿科大学

(南方医科大学口腔医学院 5年级 鲁宁)

与中国一衣带水的日本一直是令我心驰神往的国度，今年6月，我有幸与南方医科大学口腔系九名同学在孙凤阳副主任的带领下，到日本大阪齿科大学进行了为期7天的学生访问交流活动，和日本有了一次亲密接触。

满心期待着别样的旅程，让进入日本境内后每个人的疲倦都一扫而空，大家坐在旅游小巴上，带着好奇，怀着欣喜，贪婪地打量着窗外的世界。

精心保护的环境，洁净的街道，有序的交通，是日本的独到之处，也是日本给我的第一印象。车窗外迎面而来的是温润而清新的空气和满眼的青翠，高速路边大片的绿油油的农田，远处茂密的森林和绵延不断的群山，还有错落有致的精巧的日式房屋，让一个古老的，朴素的，真实的日本展现在我们眼前。日本的植被保持的很完整，他们深知大自然与人类必须保持和谐的道理吧，这是值得我们反思和学习的。日本交通发达，但人、车各行其道相互礼让，繁忙而有序；街道上干净整洁，很少看到垃圾，连灰尘都少。运转有序、静动有致的情景让人感受到日本文明程度的具体和实在。

日本给我的第二个印象是迷你，或者说叫小而精致，它的街道和高速路都比中国窄很多，车也比中国的小，路旁的房子甚至电线杆都比中国小一个码，我到的第一天坐在车上看外面的世界，总有种不真实的感觉，仿佛置身于一个可爱的童话世界，我心底不由暗暗佩服日本人节省有限空间的智慧。这个还有个很好的例子，就是日本的停车场，一个车位就刚好只能摆一辆车，没有一点多余的空间，我暗想他们停车的技术肯定很不错吧。

日本人是热情好客的。从刚下飞机开始，就被日本人的友好感动着，无微不至的服务，脸上洋溢的真切笑容，亲切甜美的声音都打动着我的心。刚出大阪站，就看到方老师亲自来站台接我们的身影，每天早上方老师都会比我们约定的时间早到宾馆等我们下来集合，对我们的每个行程都全程陪同，给我们讲解引导；在欢迎酒会上各大校长主任都亲自到场欢迎我们，

每到一处都有显示欢迎我们交流团的站牌。还记得我们参观完卫生士学校出来的时候，院长已经叫好的士车队在外面等候，黑色的小车从校门口整齐排列开来，车门已经打开，司机站在旁边满脸笑容摆出请的姿势，这种贵宾待遇让我们感受到日本人的热情恭谦。日方学生也很热情活泼，和我们虽然有点吃力但十分快乐地互相交流，并互换了联系方式，第二天他们还专门又送来了小礼物，并主动提出带领我们游玩大阪。很多中国人提起日本总有微妙的感觉，而我已经彻底地感动了。

日本对待专业学术问题的严谨和认真也让我印象深刻。记得在学校神原教授给我们用英文讲授了一堂专业方面的讲座，我们的一个同学提出了一个疑问，然后他真的很认真很细心的讲解并和我们一起讨论，还给这个同学留下了他的联系方式，一点大教授的架子都没有，完全就是像一位亲切的长者在耐心解答晚辈的疑惑，其认真、严谨的态度可见一斑。

忙里偷闲进行观光，让我们领略了日本令人陶醉的景色，无论是平和公园、芦之湖，还是清水寺，都给我留下了极为深刻的印象。大阪市内河道纵横，河流如织，桥梁似虹，气势恢宏的城门和沿着护城河而建的塔楼，丝丝缕缕传承着大阪的人文风物；清水寺三重塔、钟楼的精巧秀丽和清静典雅也蕴含着京都丰富的历史文化。尽管没有去富士山，没有看到樱花，但也没有遗憾，我已看到了日本最美的一面。

日本是个古老与现代结合很好的国家，高楼林立的景象让人感受到大都市的繁华，而百年前的房屋街道，百年前的老店吃食，让我们感受到日本在经济飞速发展、积极吸收外来文化的同时，却别忘了保留传统的民风民俗，也让我们感受到了这个与我们中国相邻的国土上，还是有许多和我们祖国相似的文化 and 建筑，由此可见，日本和中国的友好是历史悠久的。

很开心并且充实的日本7天很快就过去了，犹如一场华丽的梦，但已深深印入我的脑海之中，虽然是日本印象，但已够甜蜜，够美好，记忆会永存，友谊会常在。

(訳)

日本旅行日記 (2010年6月)

「南方医科大学学生交流団、大阪歯科大学を訪問」

(南方医科大学口腔医学院 5年 魯宁)

日本は中国の目と鼻の先にあり、私にとってとても憧れの国でした。今年6月、孫風阳先生引率の元、南方医科大学歯学部と同級生9名とともに、日本の大阪歯科大学を訪れ、1週間、学生交流を行いました。日本は初めてでしたがとても親近感を持ちました。

エコ(環境保護)、道路にゴミがなく、交通は整備されて

いること、日本の素晴らしいところ、が私に与えた一番の印象でした。車の窓を開けると青空が広がり、空気は新鮮で、高速道路の上からは田園風景が、遠くには青々と生い茂る森林と永遠と広がる(途切れることのない)山々が、さらに精巧に作られた少し古風で素朴な日本式の家屋があり、本物の日本が私の目の前にある。日本が自然と人間の調和大切にすることを探求するその姿勢は、私たちが学ぶ価値が大いにある。日本の交通の発展も素晴らしく、車は混雑しているが、秩序があり良心的なドライバーが多い、道路はとてもきれいで、ゴミもなく、運転はルールに則っている、日本文明の素晴らしさを実際に感じる事ができた。

もう一つの日本の印象は、器用さ(物が小さく精巧に作られている)、道路と高速道路は中国に比べて多く、車は中国よりも小さい(おそらく軽自動車が多いことを言っている)、道路に面する住宅や電柱も中国に比べて一回りくらい小さいのではないのでしょうか。一日目、車から外を眺めるとちょっと夢のような感覚がした、可愛いおとぎ話の世界のように感じました。

他に面白い例は、日本の駐車場はちょうど一台がすっぽり収まる場所が確保されており、無駄がない、日本人の駐車技術は超一流ですね。

日本人はもてなしが上手です。飛行機が着陸態勢になると、日本人の丁寧さには感動しました。フライトアテンダント(客室乗務員の方)は満面の笑みを浮かべ、親切に声をかけてくれました。大阪空港に到着すると、先生が(方先生)自ら出迎えてくださり、さらに先生は研修中、毎日、早朝ホテルまで迎えに来てくださいました。研修中、いつも私たちの傍にいてくれました。また通訳も担当してくださいました。ウェルカムパーティーで学長はじめ大勢の先生方が歓迎してください、行く先々で私たちを歓迎して下さるポスターを拝見しました。衛生士専門学校を見学したとき、院長がタクシーを呼んでくださり待機していると、黒色のタクシーが校門に着き、運転手の方が既にドアを開け、にこやかな表情で待っていてくださいました。このような日本人の人をもてなす習慣にはとても感動しました。日本の学生もまたとても快活で、少しの時間でしたが、大変楽しい交流となりました。次の日、(彼らはお土産を送ってくれて)大阪への観光に連れて行ってくれました。多くの中国人は日本に微妙な感覚を持っているけれども、私の中では既にそのような感情は消えていきました。

日本は学問に対して、とても厳しくまじめに取り組んでいる印象を受けました。大学では、神原教授が英語で特別講義

を行ってくださり、私たちの質問に対して、とても熱心にかつ丁寧に回答してくださいました。

平和公園や芦之湖、清水寺などを観光したが、それらは非常に趣があり、魅了される景色の数々でした。大阪市内では大阪城を見学（城の回りのお堀が印象的だった、勇ましい感じ？）し、大阪の文化にも触れました。清水寺の三重塔は、京都の洗練された豊富な歴史文化を垣間見た感じです。富士山には行けず、桜の花を見られなかったのが残念ですが、日本の美しさを十分感じることができました。

日本は古いものと新しいものがうまく調和している国だと思います。大都市の繁栄を感じさせる高層ビル、町に軒を連ねる百年前の家屋や老舗店を見ると、日本の経済発展の凄まじさが窺え、外国文化を受入れると同時に、伝統的な文化を守ることも忘れない。私たちの祖国とよく似た文化と建築が見え、やはり、日本と中国の友好関係の歴史は長いと感じました。

日本での1週間はとても楽しく充実して、あっという間に過ぎてしまいました。この経験はとても夢のようで、永遠に私の記憶の中に残るでしょう。



魯寧さんと本学の方先生



浴衣姿で記念写真（日本旅館にて）



平成22年度学生短期海外研修派遣



平成22年度の学生海外研修派遣は、7月16日～27日の日程でコロンビア大学歯学部、8月4日～16日にシドニー大学歯学部の2班に分かれて実施されました。

コロンビア大学への学生研修は初めてのことで、岡崎教授（欠損歯列補綴咬合学）をリーダーに川本先生（高齢者歯科）とコロンビア大学に留学経験のある吉川先生（生化学）の引率のもと、学生11名（3年生5名・4年生6名）が参加しました。

7月16日（金）、伊丹空港を出発し成田国際空港経由でニューヨークに向かいました。成田を午前11時過ぎに出発しましたが、13時間余りのフライトにもかかわらず時差の関係でほぼ同時刻にニューヨークに到着しました。18日（月）からコロンビア大学での研修が始まり、午前中は特別講義、午後からはコロンビア大学の臨床教育プログラムに基づき各診療科を見学するスケジュールが4日間続き、23日（金）に修了式を行いました。7月26日（月）午後、帰宅の途につき翌27日（火）夜、成田を経て無事伊丹空港に到着しました。

今回、初めてのコロンビア大学での学生研修ということで、いろいろと反省材料もありました。まずニューヨークという場所の危険性と学生の自由時間のあり方、学生には危険性の認識が薄くそれへの対応が必要と感じました。また、臨床課目を学んでいない3年生には、臨床教育プログラムは知識不足で理解が困難だと感じました。日程面や引率する教員の準備態勢、参加する学生との事前のコミュニケーションなど、今回課題となった点を改善していくことで、より実りのある学生研修システムになっていくものと思います。



また、シドニー大学へは山本主任教授（保存学）をリーダーに橋本先生（歯科理工学）と益野先生（口腔病理学）が引率し、学生8名が参加しました。

8月4日（水）夕刻に関西国際空港を出発し、香港を経由して翌日の昼前にシドニーに到着しました。6日（金）にオープニングセレモニーとウェルカムパーティーが行われ、その間シドニー大学の歯学部附属病院で歯学部の学生とともに実際の講義にも出席しました。翌7日（土）と8日（日）は自由行動としました。9日（月）から本格的な研修に入り、12日（木）まで午前中が特別講義、午後は臨床見学の研修が行われました。9日（月）は、メインキャンパスで医学部の学生の講義に出席し、10（火）はウエストミードにある口腔健康科学研究所と歯学部附属病院を見学しました。最初は、英語の授業にとまどっていた学生たちも、引率の先生方のアドバイスで受けた授業の復習を行い、後半の講義では積極的に英語で質問するようになりました。



平成22年度 父兄会・共済会総会開催

平成22年度の父兄会・共済会総会は7月3日（土）午後1時から楠葉学舎講堂で開催され、多数の父兄が出席されました。

父兄会は新旧父兄会幹事長と川添理事長・学長の挨拶に続き、諏訪学生部長が学内報告を行い、父兄会・共済会の平成21年度決算ならびに平成22年度予算が承認されました。総会后に行われた学年別個人懇談会では、275名の父兄が参加され、学年指導教授らと子弟の勉学面、生活面について熱心に懇談されました。

平成22年度 6学年父兄会
ならびに地方父兄会開催

平成22年度の6学年父兄会は、8月21日（土）午後1時から楠葉学舎において開催され、父兄62名が出席されました。全体会のあと、個人懇談会が行われました。

また、平成22年度の地方父兄会は、8月28日（土）午後2時から和歌山県歯科医師会館において「和歌山県父兄会」として開催され、父兄14名が出席されました。



和歌山県地方父兄会（8月28日）

第42回 全日本歯科学生総合体育大会

第42回全日本歯科学生総合体育大会は、徳島大学歯学部主管の下、8月1日（土）から12日（水）の日程で開催されました。部門別ではアーチェリー、ボウリング、空手道、漕艇が優勝し、柔道、剣道、ヨットが準優勝、総合では第4位と健闘しました。

学位（歯学）授与報告

河合 博 乙第1550号 (平成22年9月22日)

Rothia mucilaginosa DY-18 株が産生する菌体外網目様構造物の精製と化学組成解析

河合 高弘 乙第1551号 (平成22年9月22日)

歯性膿瘍より分離した Actinomyces oris におけるバイオフィルム性状に影響を与える遺伝子の検索・同定

方 剛 乙第1552号 (平成22年9月22日)

Comparison of the morphology of connective tissue papillae and microvascular architecture in ferret filiform papillae(フェレット糸状乳頭の微細血管構築と結合組織乳頭との比較)

人 事

職員採用

附属病院 看護師 片岡 千智
附属病院 看護師 山田 真代
以上 H. 22. 7. 1付
附属病院 看護師 山口 瞳
H. 22. 9. 1付

依願退職者

内科学講座 主任教授 堂前 尚親
H. 22. 7. 31付
附属病院 看護師 片岡 千智
H. 22. 8. 13付
総合診療・診断科 病院講師 三ヶ山茂樹
H. 22. 8. 25付
解剖学講座 講師 玉田 善堂
H. 22. 8. 31付
生理学講座 助教 成瀬 真弓
附属病院 看護師 山口 瞳
専門学校事務室 室長 種坂 隆志
以上 H. 22. 9. 30付

委 嘱

サイバーキャンパス審議委員会委員 前野 隆
H. 22. 7. 1付

ホームページ委員会委員 前野 隆
H. 22. 7. 1付
健康管理委員会委員長 覚道 健治
H. 22. 8. 11付
健康管理委員会委員 大久保 直
H. 22. 8. 1付
医の倫理委員会委員 大久保 直
H. 22. 9. 1付
財務企画委員会病院の運営に関する
事項部会部会員 中尾 昌彦
H. 22. 7. 29付
財務企画委員会牧野学舎将来計画
作業部会部会員 中尾 昌彦
H. 22. 7. 29付
大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会委員
中尾 昌彦
H. 22. 7. 29付

講師(非常勤)
内科学講座 堂前 尚親
H. 22. 8. 1付
歯科衛生士専門学校講師(非常勤) 筒井 睦
H. 22. 8. 1付
医療嘱託 麻酔科医師 塩見真由美
H. 22. 9. 1付

あとがき

—余談—

ノーベル化学賞の話題が連日、マスコミをにぎわせていましたが、受賞した鈴木章博士、根岸栄一博士ともにその研究で特許をとっていなかったことを知りました。異なる物質をパラジウムなどの触媒を利用して結び付ける「クロスカップリング理論」の研究自体は30数年前のことで、時代的な背景もありましたが、ともに意図して特許をとらなかったとも発言しています。特許をとらなかったことが様々な分野において自由に応用され多くの製品を生み、社会に多大な貢献をしていることを知りました。医薬品やテレビの液晶画面に利用され、とくに新薬開発には欠かせない発見だといえます。基礎研究の大切さを垣間みた思いがしました。

この数ヶ月の間に、本学でも様々な研究が評価を受けています。8月には「スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム」で、5年生の岸田さんと塩川さんが本学から初めて優勝しました。このコンテストは、研究成果を英語のポスターにまとめ、回覧する審査員に対して英語で発表するというものですが、研究内容はもちろんのこと英語力や図案化の能力も試されるわけです。10月には、日本代表としてアメリカで開催される世界大会にも参加されます。

9月には、秋山先生が歯科放射線の学会で「ポスター賞」を受賞し、吉川先生の「歯のぼんそうこう」の共

同研究は、公開発表により全国紙が一斉に取り上げ、テレビからも取材の問い合わせが殺到しました。

誌面がそうした話題で埋まるのは何ともうれしいことです。

大阪歯科大学広報 第159号
 発行日 平成22年9月30日
 編集発行 広報委員会
 〒573-1121 枚方市楠葉花園町8-1
 電話 072-864-3111

<<追録インタビュー>>

SCRPのアメリカ大会に日本代表として参加した岸田さん(右)と塩谷さん(左)にお話を伺いました。お2人は同じ兵庫県出身で大の仲良しです。

英語の勉強は――

「英語の藤田先生が放課後にボランティアで週2回、英会話教室を開いておられ、それに参加して学ぶうち、そこを起点に休部となっていたESSを2年生の時に2人で立ち上げました。今では、部員十人ほどが指導を受けています。また、ESSの部長である神原教授からSCRPのことを教えていただき、目標となりました」。

「高校の時、1ヶ月間イギリスに語学研修に行きました。昨年、本学のシドニー大学の研修にも参加しました。教育システムの違いなどが分かり有意義でした。コロンビア大学にも行きたかったのですが、インフルエンザの影響で中止となったのは残念でした」。

「日本選抜大会――
 「審査員6名が2人1組で回ってこれら審査されます。自分たちで作った英語のポスターをもとに英語でプレゼンをします。質疑応答を含めて十分程度です。基本は英語で、日本語を使用したり、原稿を持ち込んだりすると減点されます」。



研究について――

「4年生の秋頃から研究を始めました。赤穂のお菓子屋さんに行き、和菓子作りから始めました。餡子と皮のいろいろな組み合わせで実験しました」。

「最初は、研究テーマを見つけるのに苦労しました。人工甘味料の研究は多くされてしまったから。また、CBTの勉強と重なったため時間が足りなくて大変でした。実験では、餡子をうまく濾過できなくて実験器具をダメにしたこともありました」。

「アメリカ大会――
 「日本での大会と違い、各国代表の学生六〇名ぐらいがポスターの前で通りかかったお客さんに自由にプレゼンをします」。

「朝食会のミーティングで各国の学生さんと会話する機会がありました」。

これからの抱負は――
 「今は、先が見えない状態。国試の勉強もありますし」。

「研究すればするほど、自分の知識が足りないことを痛感しました。糖尿病のことで内科の先生に聞いたりしました。研究の幅が広いことを知りました」。

「ご指導いただいた山中先生のほか細菌の福島先生にもご教示いただきました。また、大会に参加された先生や先輩からも大会の様子についてアドバイスを受けました。ありがとうございました」。